

新春を迎えて



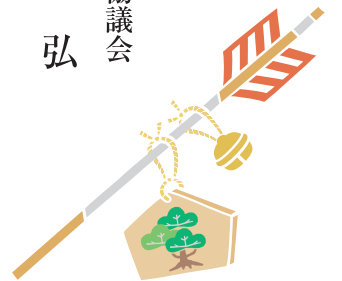
鹿児島県社会福祉協議会

会長 今吉 弘

あけましておめでとうございます。皆様心新たに輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

さて、昨年は、10月25日から28日にかけて、60歳以上の高齢者を中心としたスポーツ・文化・健康づくりや生きがいづくりを目指す総合的な祭典「ねりんピック鹿児島2008（全国健康福祉祭）」が本県の10市3町において開催されました。全国から一万余人の選手・関係者の方が一堂に集って熱戦を繰り広げるとともに、心温まる交流を深め、成功裡のうちに閉幕しました。そして、「本物。鹿児島県」を全国に大きく発信することができました。これもひとえに関係者を始め、県民の皆様のご尽力の賜であります。この大会を通じて発揮された高齢層の活力を今後とも活かしていけたらと存じます。

ところで、私どもを取り巻く生活環境は、只今、大変難しい局面の中にあります。かつて経験したことのない少子高齢化が進行する中、地域社会の容、家族の形態や機能の変化等はご承知のとおりであり、加えて、昨秋から



世界的規模で、深刻な金融経済危機に見舞われております。福祉の面では、変動する社会情勢に対応するため、国においては、この数年の間、持続可能な社会保障制度を構築すべく各種の制度改革を進めて参りました。また、実情を見ながら、手直しも行われ始めております。このような中で、皆様が生活される近隣地域での福祉活動に、新たな期待が寄せられております。援助が必要な方に制度が的確に活かされていくことが何より肝要ですが、とかくニーズが潜在化している事例も少なくありません。せっかくの制度や施設が活かされるよう、障がい者・児童・高齢者の方がたと心を通い合わせ、相談や支援を進める地道な努力が必要と存じます。私ども県社会福祉協議会もこのような観点も含めて、関係機関・団体の方がたとの連携をさらに密にして、諸懸案の打開に向かって一層の努力をしていかねばならないと存じます。皆様のさらなるお力添えをお願いいたします。新しい年が、より良き年であることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

大韓民国 全羅北道社会福祉事業関係者

福祉サービスの発展充実のため

来鹿

鹿児島県社会福祉協議会と大韓民国 全羅北道社会福祉協議会は、平成15年10月に姉妹盟約を結び、相互の交流が続けています。昨年11月12日から16日の5日間の日程で、全羅北道から社会福祉事業の関係者10人が来鹿され、県内の社会福祉施設での研修視察を行い、活発な意見交換等が行われました。

社会福祉事業関係者の研修視察は今回で5回目となり、高齢者福祉施設をはじめ、精神障害、知的障害、児童養護施設などに勤務する職員9人と通訳1人の総勢10人の来鹿となりました。

一行は、11月12日に鹿児島市に到着し、かごしま県民交流センター内にある「介護実習・普及センター」での研修視察を行い、翌13日から県内の特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、母子生活支援施設、知的障害者更生施設、児童養護施設の5カ所の福祉施設を訪問されました。

訪問先では、各施設の活動内容の説明を受けた後に施設内を視察したり、福祉機器等の体験、施設職員との意見交換等を通して、日本の社会福祉制度の実情の把握に熱心に取り組んでおられました。また、施設利用者ともコミュニケーションを図るなど交流を深めました。

短い時間でしたが、各施設で熱心に質問等をする姿から、自国の福祉サービスの発展充実につなげようとする熱い思いが伝わった5日間でした。

また、かごしま県民交流センター、ふれあいプラザなのはな館内に設置されている「いぶすき篤姫館」や郷土芸能の見学、桜島と霧島観光も行い、11月16日に帰国されました。

研修視察に際して、訪問先の社会福祉施設や関係機関等多くの方々から多大なご支援ご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。



研修先の熱烈歓迎



特殊浴槽体験

今回の視察研修施設

特別養護老人ホーム
はっぴー園 (鹿児島市)

身体障害者療護施設
太陽の里療護園 (日置市)

母子生活支援施設
千草寮 (鹿児島市)

知的障害者更生施設
光の里 (南さつま市)

児童養護施設
慈光園 (曾於市)